

まとめ

- 長野支部の1人当たり医療費は全国で最も低い、これは受診率の低さと1件当たり日数の少なさによるものである。一方で1日当たり医療費は全国平均を上回っているが、1日当たり医療費は診療行為や疾病構造、症状の程度に影響を受けると言われている。1日当たり医療費が高い要因として具体的に考えられることは、医療供給側(医療機関)の要因としては一人の患者に対して検査等様々な診療行為をしている、先進医療が多い、過剰な診療行為をしている等が考えられ、医療需要側(加入者)の要因としては症状の程度が重くなってから受診している等が可能性として考えられるがいずれも断定はできない。
- 健診データからは男女とも血圧のリスク保有率が高い結果となっており、傷病別の医療費データからは脳血管疾患の入院1日当たり医療費が全国でも上位になっていることから脳血管疾患の要因の1つとして血圧のリスクが影響するのではないかと考えられる。また、この血圧のリスク予防に重点を置いた対策を考える必要がある。
- 医療費に関しては医療提供体制との相関関係が統計的にも示されており、病院や病床数、医師が多いことで受診率が高くなり、入院する人も増え、在院日数も長くなり、結果として医療費を押し上げる要因の1つとなっている。そういう観点からみた場合、長野県の人口10万対病院病床数は全国35位、人口10万対一般診療所病床数は全国37位、平均在院日数は全国45位といずれも下位に位置しており、あわせて1件当たり日数と受診率も低く、結果として1人当たり医療費が低い結果となっている。